

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：AA 研共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築(3)―文字研究術語集の構築―(jrp000283)」2024 年度第 1 回研究会

日時：令和 6 年 6 月 16 日（日曜日）午後 10 時 00 分より午後 15 時 00 分

場所： オンライン

報告者名（所属）

1) 清水政明（AA 研共同研究員，大阪大学）

チュノムに見られる類似形要素の置換

ベトナムでかつて使用されたチュノムの造字法として、漢字の音を借りてベトナム語を表記する仮借字、及びそれに義符を加えた形声字がほとんどの数を占める中、ラー・ミン・ハン(2004)『ベトナムチュノムにおける意味の構造』は一定数の会意字と漢字の訓読みの例があることを指摘した。本発表では、その会意字の一部が形声亦声（義符の 1 つが同時に音も表示）であること、また、訓読みの例の一部は、音・義両方の借用であることを指摘した。さらに、一部の会意字については、義符の 1 つと字形の類似する要素を音符とする形声字が存在すること、また、訓読みについては形の似通った形声字が存在することを指摘し、ある時期にそれぞれ後者から前者に置き換わった可能性があることを指摘した。よって、真正の会意字・訓読みと、それらの二次的に生まれた可能性のある会意字・訓読みを区別する必要があることを指摘した。

2) 荒川 慎太郎（AA 研）

「文献中に出現する頻度の低い」西夏文字の字形

西夏文字は 11 世紀、約 6000 字が一度に創製・公布されたが、「字書には現れるものの、他の文献にはほとんど登場しない」という文字も多い。大型辞書『西夏文詞典（世俗文献部分）』から、当該の文字を抽出し、実に 1800 字を超えるという統計を示した。その意味から見ると、植物・動物・昆虫名など内陸国西夏ならではの文字種が用意されたものの、実際の文献に現れないことが分かる。字形的には、縦線・横線を付すという簡易な派生によるものが多い。西夏文字考案者も、使用頻度が低いことを見越して造字を行ったとも考えられる。

3) 全員

文字研究の術語に関する討議

午後の部として「常用字（常用漢字）」「識字」について荒川が記述案を提示し、メンバーから各文字の見地からコメントを出してもらい、各人の専門とする文字の見地から討議を行った。

今年 12 月 AA 研で開催の、日本漢字学会に関する相談も行った。